

小野田城跡

当神社の裏山(標高八十メートル)を「城山」と言い、山上に二段の曲輪(平坦な区画)と土塁、石垣など中世城郭の跡を残しています。

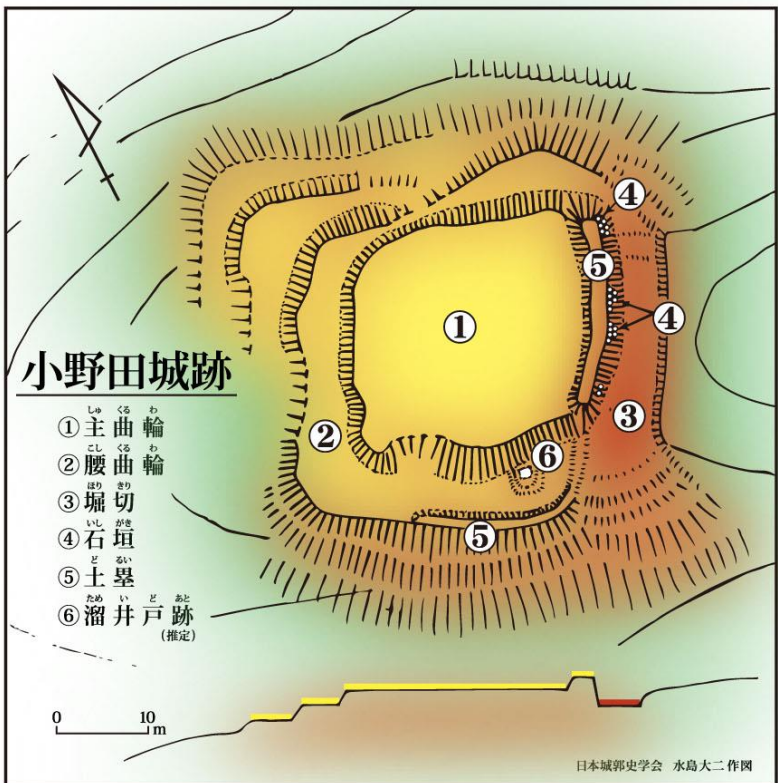
城郭は、東から続く尾根を幅五メートル余りの広い堀切(空堀)で遮断した領域内に、東西二十三メートル、南北二十五メートルの主曲輪と、その脇を廻るように造られた五メートル幅の細長い腰曲輪で構成されています。

主曲輪の東側には、最大幅四メートルの大土塁を築いて、堀切に接する側の切岸(人工の斜面)に高さを加え、そこに石垣を積むことで垂直に近い斜面となつて、容易に敵を登らせない、侵入させない工夫を見ることが出来ます。また、同様に北端の腰曲輪にも、さらに二段の曲輪を下方に設けて、登りにくくした守りの構造があります。

南側の腰曲輪には、土塁で囲まれた一角に溜井戸跡(雨水などを溜める所)と思われる二メートル×三メートルの窪地があります。ここで手や顔を洗っていたのかも知れません。

居城者や年代など詳しいことを知る手掛かりはつかめていませんが、当神社のすぐ裏山に築かれていることや眺望に優れていることから、この山城は、郷の安全を見守ることを目的として築かれた「見張りの城」だったと思われます。

(水島大二)



- ① 主曲輪
- ② 腰曲輪
- ③ 堀切
- ④ 石垣
- ⑤ 土塁
- ⑥ 溜井戸跡(推定)

・曲輪 土塁や堀などで仕切られた、城の一区画。郭とも書く。
・腰曲輪 斜面の一部を削って造る平坦地。すぐ上の曲輪の補助的存在。
・土塁 曲輪の周囲や一部に築かれた土盛り。敵の侵入を防いだり、弓矢や弾よけとして築かれた。